

## 書籍紹介

# 「生物に世界はどう見えるか」

感覚と意識の階層進化

## 實重

重実（著）

近年における生物学の進展には、めざましいものがあります。自然界の様々な謎が次々と解き明かされてきました。私は、そうした最新の科学的知識を総動員して、微生物から、植物、カビ・キノコ、ミニズ、昆虫、魚、鳥そ

して哺乳類まで、生物界のあらゆる構成員について世界はどう見えているかという点を描いてみました。

ミツバチは野原をあちこちに探索してから、どうやつて一直線に巣に戻ってくるのでしょうか。

それは、「経路積算」という能力に基づくものだということが分かつてきました。しかもミツバチは、私たちに見えない偏光や地磁気を頼りにして内面に地図を描いているようなのです。

また、渡り鳥はどう

ンパスに加えて、地磁気や低周波など私たちに分からない信号を利用し、間違えずに長距離飛行をします。

魚たちの大群が群れて、一斉に旋回できるのはなぜなのか。植物はどうやって葉と根の間で連絡を取り合うのか。キノコが何ができるのでしょうか。これは頭の中に、生まれつき「どの方向に向かってどの時間だけ飛ぶか」ということがインプレットされているのです。

そして鳥たちは、太陽

やつて何千キロにも及ぶコースを間違えずに飛ぶことができるのでしょうか。これは頭の中に、生はすべて1つ1つの細胞が持つ、認識の力に基礎があります。

この本では、こうした生物界の様々な不思議を、感覚という視点から解説します。そして細胞レベルの「認識」が個体レベルで「感覚」となり、さらには私たちの持つ複雑な「意識」まで進化していく様子を、階層の発展として描きました。

私は農林水産省の行政官として仕事をする傍ら、農業振興課常務理事兼事務局長。著書に「森羅万象の旅」（地溝社）がある。

休刊のお知らせ

本紙12月25日付は、例年通り休刊いたします。ご了承ください。

（著者）實重実



▲中国四国農政局・平田船川汐止堰  
ファブリダム幅39.87m×高3.1m→2門  
SUS銅製二段式ローラゲート幅13.0m×高3.1m→1門



▲関東農政局・御前山ダム取水設備  
取水ゲート(SUS銅製スライドゲート)1.82m角ほか6門

おかげさまで創業91年



株式会社 丸島アクアシステム  
本社：大阪市中央区谷町5-3-17 〒540-8577 ☎(06)6766-3300  
支店/営業所：東京・北海道・東北・九州・盛岡・横浜・新潟・名古屋・三重・広島・大分・沖縄  
<http://www.marsima.co.jp>